

2022年3月期 第2四半期決算説明会 アナリスト・機関投資家向け質疑応答摘録

2021年11月5日
株式会社SUBARU

Q：半導体供給不足に起因した生産影響について。

A：前回発表時は第1四半期で約6万台、通期で約4万台の影響としていたが、今回更に13万台の下方修正とした。背景は、半導体供給課題に加え8月下旬以降の東南アジアでの新型コロナウイルス感染症拡大に起因した部品の供給制約に伴い、国内および米国生産拠点において一時操業停止や生産量の調整が発生し、上期で約16万台の影響となった。未だ供給制約は解消していないが、増産に向けて継続して努力することで下期は1万台の影響に留める計画。

Q：半導体供給制約を受け僅少となっている在庫が適正水準に戻るタイミングはいつになるか？

A：米国市場での適正在庫は45日商分としていたが、足元の低い在庫水準の下、高効率なオペレーションを実行できており、30日商分程度でも十分回すことができ且つ機会損失もなく進められるのではないかと考えている。リテーラーも同様の感覚を持ち始めているのではないかと考えている。米国ではしばらく強い需要が続く、在庫レベルについては、1年くらいかけて緩やかに30日商レベルまで回復するイメージで考えている。

Q：原材料価格の高騰の影響について。前回通期計画に対し20億円の増益要因となる背景を教えてください。

A：前回発表時は貴金属のパラジウム、ロジウム価格の高騰が続くと見ていたが、現在の市況を前提に見直しを行った。一方で、鋼材等のその他原材料が全般的に値上がり、また物流費等も増加していることから、原材料・市況は前回計画に対し+20億円としている。

Q：コロナ禍・半導体供給不足といった一連の状況がある程度正常化した後、米国の販売ビジネスはどのように変わっていると思うか。

A：自動車業界では、在庫大幅減に伴いインセンティブ費用が減っており、利益を大きく押し上げる要因になっている。業界全体として、低い在庫が資金面でリテーラーの効率的な事業運営につながっていること、中古車価格が高値で安定することによる収益性の改善といった大きな旨味も享受できていると感じており、以前のような高い在庫水準には戻らないと考えている。そのような背景の下、正しい価格づけとその価値に見合った適度なインセンティブの使い方を進めて行く方向に行くと思う。

Q：環境対応を加速すべくBEV展開車種を拡充していく場合、リソースのキャパシティは十分にあるのか。費用を増やす、ICEやHEVの開発を遅らせる等により対応していくのか。

A：工数については以前から検討を進めてきており、実際に第1弾のBEV「SOLTERRA」はアライアンスを活用し共同開発した。BEV開発では、ICE開発で相当な時間と工数を必要としていた仕向け地別の排ガス対応が不要となる。また、当社の得意とするAWD性能はモーターとバッテリーの

組み合わせで非常にいい性能が出せること、工数のスリム化が出来ることが見えてきている。その他協調領域についてはアライアンスやサプライヤーとの協業により進めて行くことで、BEVづくりは今以上に効率化を進められ、何かを大きく犠牲にして工数を捻出することなく、持続的な商品のラインナップを展開出来るのではないかと考えている。

以上